

首都圏利用商業施設

トップ 10 に池袋から 3 施設、レジャー併用施設が集客力発揮

2021 年 6 月 16 日

(株)日経リサーチ

株式会社日経リサーチ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:福本 敏彦)は 16 日、商業施設の利用実態調査「商圈センサス」首都圏版の最新調査データの提供を開始しました。

今回の調査は 2021 年春に、1 都 3 県の商業施設約 700 カ所(一部圏外施設も含む)を対象に実施しました。調査結果に基づく商業施設の集客力ランキングでは「西武池袋本店」が 2 期連続の首位となりました。同店は半年前の前回調査(2020 年秋)で、15 期連続首位の「伊勢丹 新宿店」を抜いて 1 位となり、そのままトップを維持しました。

首都圏利用商業施設(集客力)ランキング 2021 年春

(カッコ内は 2020 年春調査の順位)

1(3) 池袋	西武池袋本店
2(1) 新宿	伊勢丹 新宿店
3(2) 渋谷	渋谷ヒカリエ
4(9) 池袋	池袋サンシャインシティ(アルタ、アルパ)
5(4) 新宿	小田急百貨店 新宿店
6(5) 銀座・有楽町・日比谷	銀座三越
7(7) 池袋	東武百貨店 池袋店
8(10) 1 都 3 県外	御殿場プレミアムアウトレット
9(13) 秋葉原	ヨドバシ Akiba ビル(マルチメディア Akiba)
10(15) 川崎・鶴見	ラゾーナ川崎プラザ

トップ 10 には池袋エリアから 3 施設が入り、順位も 20 年春に比べて上昇または維持とするなど、同エリアの存在感が高まっています。

4 位の「池袋サンシャインシティ(アルタ、アルパ)」は展望台や水族館などを備え、買い物以外にも様々なレジャーが楽しめる複合商業施設ですが、「ラゾーナ川崎プラザ」「東京スカイツリータウン(東京ソラマチ)」など、同様の特徴を持つ施設の順位上昇が目立ったのも今回の特徴です。今回の調査は 2 回目の緊急事態宣言下で実施されましたが、買い物もできる身近なレジャースポットとしてこれらの施設が集客力を発揮した可能性があります。

エリア別では、渋谷・表参道エリアは 3 位に入った「渋谷ヒカリエ」を除き、食品フロアを持たない



施設を中心に軒並み大幅に順位を下げました。テレワークの普及や外出自粛により都心への来街が減少していることに加え、巣ごもりの増加によって商業施設の利用目的が「食品」の購入中心となったことから、大きく影響を受けたと思われます。

■「商圈センサス」首都圏版

首都圏約 14000 人の居住者を対象とした、商業施設の利用状況や属性に関する調査結果のデータベースです。調査は春と秋の年 2 回実施しており、最新の 2021 年春の調査は 1 都 3 県の商業施設約 700 カ所（一部圏外の大型アウトレットを含む）を対象としました。

■ 詳細は以下をご覧ください

https://www.nikkei-r.co.jp/service/lifestyle/census/?utm_source=prtimes&utm_medium=release&utm_campaign=census

■ 問い合わせ対応窓口

株式会社 **日経リサーチ**

<https://www.nikkei-r.co.jp/>

ソリューション本部 営業企画部 担当：中谷、有賀

TEL： 0120-980-181

E-mail：census_contact@nikkei-r.co.jp